

事務局:〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル)2階
電話/FAX:03-5251-2133 e-mail:jet-office@japet.or.jp
日本教育工学会ホームページ <http://www.japet.or.jp/jet/>

ISSN 1340-9913

日本教育工学会 会員専用ページ 公開のお知らせ

会長 清水 康 敬

本学会創立20周年を記念していくつかの記念事業を計画してきましたが、この度、本学会の会員専用ページを構築しました。これは、会員を対象に、学会での活動を支援するためのWebシステムです。

会員が自分の専用ページに入りますと、現在の学会に登録している情報(氏名、所属機関、住所など)や会費納入状況を確認することができます。また、会員が論文を投稿する場合もこのシステムを利用することになります。さらに、学会の編集委員会では、論文の審査等の処理をこのシステムによって行うことになります。

本年9月に開催されます第20回全国大会の発表申し込みの際にもこのシステムを利用して、発表原稿の題目、発表者等を入力していただくことになります。ただし、発表は年会費を納入している会員であることが条件ですので、会費納入についてはシステムがチェックすることになります。そのため、今年度の年会費を未だ納入していない会員は早めに送金して下さいますようお願いいたします。

本号目次

日本教育工学会 会員専用ページ 公開のお知らせ	研究会の開催案内・報告	11
----- 1	秋の合宿研究会のご案内	14
第20回全国大会のお知らせ(第3報)	第10期第8回理事会議事録	15
----- 4	新入会員/学会日誌等	16
全国大会原稿見本	-----	10

会員専用ページへのアクセス方法，操作方法をご紹介します。

1．会員専用ページにアクセスする

本学会のホームページのメニューからアクセスしていただくか，または，
<http://www.jset.gr.jp/pg/member/>
に直接アクセスしてください。右図1のログイン画面が表示されます。



図 1 ログイン

2．ログイン

IDとパスワードを入力して「ログイン」ボタンをクリックします。IDとパスワードは，すべて半角・小文字で入力してください。

ID・パスワードは，会員あてに郵送させていただきました「日本教育工学会 会員専用ページ ID・パスワード発行のお知らせ」に記載されています。ただし，最近入会申し込みをいただきました場合，2004年6月4日までに入会金と今年度会費の入金が確認された会員まで郵送させていただいています。その後に入会された会員には，順次お知らせします。

3．トップページ

正しくログインすると，下図2のトップページが表示されます。トップページには，各種メニュー，現在登録されている会員情報の抜粋と，学会からのお知らせが表示されます。



図 2 トップページ

4．パスワード変更

トップページのメニュー「パスワード変更」から，パスワードを変更することができます。セキュリティ維持のため，パスワードは定期的に変更されることをお勧めします。

5．会員情報詳細

トップページの会員情報抜粋の下にある「詳細」リンクをクリックすると、会員情報詳細画面が表示されます。会員種別、住所など、現在登録されている内容を確認することができます。

6．入金情報

トップページのメニュー「入金情報」をクリックすると、下図3の入金情報画面が表示されます。この画面で、年会費、研究報告集費などが入金済になっているかどうかを、確認することができます。

The screenshot shows a web browser window with the URL 'jset.jp'. The page title is '日本教育工学会' (Japan Society for Educational Technology). The main content area is titled '入金情報' (Payment Information). A message states: '現在までの請求・入金状況を表示しています。入金済でも、年会費利用が未確認の場合は「未入金」と表示されます。' (We display the current billing and payment status. Even if you have paid, if the annual fee usage is not confirmed, it will be displayed as 'Not Paid'). A yellow warning box says: '現在、2回分の入金不足があります。' (Currently, there is a payment shortage for 2 bills). Below this is a table with the following data:

名称	単価	数量	金額	入金
2014年度研究報告集	2500	1	2500	未入金
2014年度年会費(平年会員)	5500	1	5500	未入金

図 3 入金情報

7．論文の投稿

トップページのメニュー「論文の投稿」から、投稿した論文の状況を確認することができます。投稿した論文が事務局で受理されたか、査読中なのか、など確認することができます。また、この画面の「論文を投稿する」ボタンから、論文の電子投稿を行うことができます。論文の再投稿も、このメニューから行う事ができます。

8．担当論文

論文担当者の方のみ、メニューの「担当論文一覧」から、担当していただいている論文一覧を表示し、現在担当していただいている論文の状況を確認することができます。

9．その他

会員情報の変更、会員種別の変更、退会申請なども、オンラインで行う事が出来るようになる予定です。当面は、本会員専用ページで情報をご確認後、ページ記載の学会事務局のメールアドレス宛てに、変更点をメールしていただくことで対応予定です。

また、全国大会の時期には、大会の発表・参加申込みも、本会員専用ページから、行う事が可能となります。将来的には、会員のみを対象とし、過去の論文を検索して閲覧できるようにすることも検討中です。

セキュリティについて

SSLで暗号化し、通信内容を保護しています。

日本教育工学会 第20回全国大会(20周年記念大会)のお知らせ

(第3報)

日本教育工学会第20回全国大会(20周年記念大会)を、下記のように東京工業大学において開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています。また研究発表につきまして、奮ってご応募ください。

1. 開催期日・会場

期日：2004年9月23日(木)～25日(土)(3日間)

会場：東京工業大学(大岡山キャンパス)

〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1(東急目黒線・大井町線 大岡山駅前)

<http://www.titech.ac.jp/>

2. 大会日程

第1日 9月23日(木)	第2日 9月24日(金)	第3日 9月25日(土)
9:30～10:00 受付	9:00～9:30 受付	9:00～9:30 受付
10:00～12:00 一般研究発表1	9:30～12:00 一般研究発表2	9:30～12:00 一般研究発表3
12:00～13:30 昼食・展示見学	12:00～13:30 昼食・理事会・ 展示見学	12:00～13:00 昼食・ 大会企画委員会
13:30～15:30 シンポジウム	13:30～14:00 全体会	13:00～15:30 一般研究発表4
15:40～18:10 課題研究発表1	14:00～18:00 20周年記念企画 (基調講演,特別講演,パネルディスカッション)	15:40～18:10 課題研究発表2
	18:00～18:10 移動	
	18:10～20:30 懇親会	

3. 各セッションについて

(1) シンポジウム

新情報技術が変える教育の姿

コーディネータ：山西潤一(富山大学), 近藤 勲(岡山大学)

司会：赤堀侃司(東京工業大学)

登壇者：

堀田龍也(静岡大学) 学校間交流・地域連携で学ぶ

影戸 誠(日本福祉大学) 身近になった国際共同学習

山内祐平(東京大学) CSCLがもたらす学習

黒田 卓(富山大学) ユビキタスコンピューティングと教育

指定討論者：美馬のゆり(日本科学未来館)

2005年「学校教育の情報化」推進計画の最終年度が目前です。学級のあらゆる授業において教員及び児童生徒がコンピュータやインターネットを活用できる学習環境の整備が進んでいます。他方、通信回線速度の高速化をはじめとする情報通信技術の加速度的進展に伴い、教育用コンテンツの動画配信や双方向テレビ会議システム、ネット上の共同学習環境の実現、モバイル通信やユビキタスコンピューティングの教育利用といった教育支援技術が身近なものになってきました。そこで、本学会では、これら新情報技術による新しい学習環境が児童生徒の能力形成にどのような教育効果や問題をもたらすのかを日々開発的研究や実践的研究に取り組んでいる登壇者と検証しながら、今後の教育のあり方を考えたいと思います。

(2) 20 周年記念企画

基調講演：これからの学校と大学

講師：遠山敦子（前文部科学大臣，独立行政法人大学評価・学位授与機構客員教授）

創立 20 周年を迎えた本学会の 20 周年記念企画の一環として，遠山敦子前文部科学大臣から，基調講演を賜ることになりました。遠山前文部科学大臣は，本年 3 月 25 日に，「こう変わる学校こう変わる大学」(講談社) を出版されました。そこでは，これからの初等中等教育や高等教育における人材育成と教育改革について，新たなビジョンが述べられています。その中から，基調講演では，「確かな学力と教育の情報化」，並びに「大学教員に求められること」の 2 つの観点で，お話を頂戴できることになりました。

特別講演及びパネルディスカッション：

教員の ICT 活用指導力の目標と研修のあり方～米国の ISTE の事例を参考にして～

コーディネータ：近藤 勲（岡山大学），山西潤一（富山大学）

学校教育の情報化が進む中で，よく分かる授業の実現や情報教育が目標とする情報活用能力の育成は，教員の力量に負うところが大きいと言われていています。本特別講演・パネルディスカッションでは，ICT 活用指導力を有する教員の力量形成をどう行えばよいか，教師教育や教員研修を中心に，そのあり方を考えます。

特別講演：米国における NETS・T とその活用（仮題）

講師：M. Piper（International Society for Technology in Education(ISTE)理事）

ISTE では，米国教育省等の助成を受けて NETS・T (National Educational Technology Standards for Teachers)を開発しましたが，これが全米各州，各教育委員会，各学校で教員の力量形成に活用されています。本講演では，ISTE 理事の M. Piper 氏に，開発の経緯ならびにその活用についてお話していただくと同時に，米国の教師教育や教員研修の現状についてもご紹介いただく予定です（逐次通訳付）。

パネルディスカッション

司会：生田孝至（新潟大学）

登壇者：

永野和男（聖心女子大学） 教員に求められる ICT 能力

村瀬康一郎（岐阜大学） 遠隔教育による教員の力量形成

南部昌敏（上越教育大学） 教員養成における ICT 活用指導力育成カリキュラム

平松 茂（岡山県教育委員会） ICT 活用指導力向上のための研修カリキュラム

指定討論者：大谷 尚（名古屋大学）

米国事例に学ぶ特別講演の後を受けて，時代や社会のニーズにあった教員の資質形成やその向上のための研修カリキュラムを，どのような方策と理念で開発すればよいか，教員の資質向上に責任を持つ教員養成系大学や現職教員の研修に責任を持つ教育委員会など，それぞれの立場から提言してもらいます。とりわけ高度情報通信社会の中で求められる ICT 活用指導力など教師の新しい資質・力量に関して，そのような資質・力量を備えた教師を育成するための方策・システム，カリキュラムについて登壇者とともに考えていきます。

(3) 課題研究

以下のように10件のテーマが設定されています。

K-1 研究方法論を意識した授業研究

コーディネータ：大河原 清（岩手大学），澤本和子（日本女子大学）

K-2 教育・学習を支援する機器・システム・ソフトウェアの開発意図とその評価
企業の開発者が教育工学的見地から自ら検証する

コーディネータ：大久保昇（内田洋行），小林正幸（日本電気），奥田聡（富士通）

K-3 新しい教育環境における多面的評価

コーディネータ：米澤宣義（工学院大学），佐々木整（拓殖大学）

K-4 第2言語学習を支援する技術とインストラクショナルデザイン
CALLの新展開

コーディネータ：仁科喜久子（東京工業大学），山田恒夫（メディア教育開発センター）

K-5 韓国共同セッション e-Learning: policies, practices and research

コーディネータ：鈴木克明（岩手県立大学），Insung Jung（国際基督教大学）

K-6 e-Learning 成功のための実践・運用のモデル化

コーディネータ：松居辰則（早稲田大学），赤倉貴子（東京理科大学）

K-7 デジタルコンテンツ活用実践の効果

コーディネータ：中山実（東京工業大学），堀田龍也（静岡大学）

K-8 教師のICT活用指導力のスタンダードの策定とその活用

コーディネータ：東原義訓（信州大学），木原俊行（大阪市立大学）

K-9 教科「情報」の実際と実践的課題

コーディネータ：石川 賢（宇都宮大学），原克彦（目白大学）

K-10 ユビキタス技術の教育利用

コーディネータ：山内祐平（東京大学），矢野米雄（徳島大学）

(4) 一般研究

一般研究発表は以下のテーマのセッションで行われます。セッションは申込みの状況に応じて統合・分割などの調整を行うことがあります。なお、「その他」を選んだ場合は、大会企画委員会に、発表セッションを一任していただくこととなります。

(1)語学教育・国際理解 (2)情報教育 I(情報活用能力の育成等) (3)情報教育 II(教科指導等) (4)メディア教育・メディアリテラシー (5)教師教育 (6)特別支援教育 (7)生涯学習・企業内教育 (8)看護・福祉教育 (9)教育評価・データ解析 (10)授業研究 (11)授業設計・実践 (12)高等教育における教育方法 (13)教育ソフトウェア開発・評価 (14)学習コンテンツ開発・評価 (15)遠隔教育・遠隔学習 (16)認知モデルと知的学習支援システム (17)インターネットを利用した授業実践 (18)教育メディア (19) e-Learning (システム) (20) e-Learning (運用・評価) (21)協調学習と協調作業 (22)その他

(5) English Session

発表及び質疑応答が英語で行われます。本セッションは教育工学研究の国際的流れに対する本学会の寄与であるとともに、国際的な場において研究発表ならびに討論を有意義なものとするための、特に若い研究者に対する訓練の場でもあります。このような趣旨をご理解いただき、このセッションに奮ってご応募いただきたいと存じます。なお、発表は一般研究発表1～4のいずれかのセッションと同じ時間帯で行われます。

*本大会では、自主シンポジウムのセッションは設けません。

発表時間について

発表時間は以下の予定です（発表件数に応じて変わる場合があります）。

[課題研究] 課題研究の趣旨説明 10分 研究発表各 15分 総合討論 1時間程度

[一般研究] 発表 15分 質疑応答 5分

[English Session] 発表 15分 質疑応答 5分

4. 大会までのスケジュール

6月28日（月） 一般研究，English Sessionの発表原稿受付（発表申し込み登録）
開始（後述 JSET ホームページ大会関係部分から）

7月9日（金） 課題研究採否決定通知

7月10日（土） 課題研究の最終原稿受付（発表申し込み登録）開始（後述 JSET
ホームページ大会関係部分から）

7月30日（金） 課題研究発表原稿（4ページ），一般研究発表及び English Session
原稿（各2ページ）提出（発表申し込み登録）締切

8月27日（金） 事前参加申込期限（この日までに参加費を送金してください，これ以
降は会場での当日受付となります）

5. 大会への発表申し込み

（1）発表者の資格

- ・ [発表者]は，本学会の会員に限ります。ただし，会員以外が連名者となることは，差
し支えありません。ここでいう[発表者]とは，ファースト・オーサー，あるいは連名
者という意味ではなく，大会当日発表される方を意味します。
- ・ この会員には，発表申し込み時に入会される方も含みます。ただし，発表原稿受付の
段階で[発表者]が年会費を納入されていない場合には発表原稿を受け付けません。尚，
今年の大会から，JSET ホームページに指定される「発表申し込み」の登録をしてくだ
さることにになりましたので，その登録時に会費納入状況がチェックされます。事前に
会費の納入をお願いします。
- ・ 大会企画委員会が特に発表を依頼した場合は，この限りではありません。

（2）発表申し込み件数の制限

- ・ 会員は，[課題研究・一般研究・English Session]に，それぞれ1件（1人合計最大3
件）を発表者として申し込むことができます。
- ・ 連名者の発表件数には，制限はありません。
- ・ 類似な内容，シリーズ的な内容を複数の発表者に分割して申し込むことはできません。
同一発表者が課題研究と一般研究に申し込む場合も同様です。
- ・ [課題研究]は不採択になることがあります。その場合は[一般研究]として申し込む
ことができますが，既に[一般研究]にも申し込みをしている場合には，それを取り
下げる必要があります。

(3) 課題研究の最終原稿の提出(発表申し込みの登録)

- ・ 課題研究に申し込まれた発表は、現在、大会企画委員会が発表の可否について審査しています。発表の採否は、発表内容だけでなく、全体の発表件数も考慮して決められます。7月9日(金)までに、それを、電子メールで申込者に連絡します。
- ・ 課題研究に採択された場合には、A4サイズで4ページの原稿を作成してください。原稿用紙は送付しません。本号に掲載の原稿見本またはJSETホームページ中の大会関係部分(<http://www.jset.gr.jp/conference20/>)に示される内容に従ってください。
- ・ 課題研究に採択された場合、最終原稿を、以下の2つの方法のいずれかにより、送付してください。

オンラインで原稿ファイルを送信する場合

最終原稿のファイルの受付期間は、7月10日(土)の10:00(予定)から、7月30日(金)までです。上述のJSETホームページ大会関係部分から、発表者自身で、「発表申し込み」を登録してください(タイトル、著者、発表者とその連絡先など必要事項を、フォームに従い、入力してください)。発表申し込み画面に原稿ファイルを指定する部分がありますので、指定された手続き(後日、ホームページで指定)に従って、原稿ファイルを添付してください。なお、原稿ファイルは、WordもしくはPDF形式で保存してください。また、その容量が1MBを超えないようにしてください。

郵送または宅配便にて原稿を送付する場合

大会原稿提出票(JSETホームページ大会関係部分からダウンロード)に必要な事項を記入の上、それを、オリジナル原稿とコピー1部とともに、7月30日(金)必着で、下記の宛先までお送りください。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル2F

日本教育工学会事務局 宛 (プロポーザル等の提出先とは異なります)

なお、この場合にも、発表者自身が、7月30日(金)までに、JSETホームページ中の大会関係部分において、「発表申し込み」を登録する必要があります(この日までに、原稿の到着と発表申し込み登録の両方が確認される必要があります)。

- ・ 発表時間の希望には応じられません。

(4) 一般研究及びEnglish Sessionの原稿の提出(発表申し込みの登録)

- ・ 一般研究とEnglish Sessionの原稿は共に、A4サイズで2ページです。1ページのものを受け付けません。
- ・ 原稿用紙は送付しません。原稿見本(本号に掲載)またはJSETホームページ中の大会関係部分(<http://www.jset.gr.jp/conference20/>)に示される内容に従って、原稿を作成してください。
- ・ 原稿は、以下の2つの方法のいずれかにより、送付してください。

オンラインで原稿ファイルを送信する場合

原稿ファイルの受付期間は、6月28日(月)の10:00から、7月30日(金)までです。上述のJSETホームページ大会関係部分から、発表者自身で、「発表申し込み」を登録してください(タイトル、著者、発表者とその連絡先など必要事項を、フォームに従い、入力してください)。発表申し込み画面に原稿ファイルを指定する部分がありますので、指定された手続き(後日、ホームページで指定)に従って、原稿ファイルを添付してください。なお、原稿ファイルは、WordもしくはPDF形式で保存してください。また、その容量が1MBを超えないようにしてください。

郵送または宅配便にて原稿を送付する場合

大会原稿提出票(JSETホームページ大会関係部分からダウンロード)に必要な事項を記入の上、それを、オリジナル原稿とコピー1部とともに、7月30日(金)必着で、下記の宛先までお送りください。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル2F

日本教育工学会事務局 宛

なお、この場合にも、発表者自身が、7月30日(金)までに、JSETホームページ中の大会関係部分において、「発表申し込み」を登録する必要があります(この日までに、原稿の到着と発表申し込み登録の両方が確認される必要があります)。

- ・ 発表時間の希望には応じられません。

6. 会場の設備について

すべての会場に、プロジェクタ、OHPを準備いたします。

機器の利用確認は、当該の発表セッション開始5分前までに発表者の責任で完了してください。

7. 企業の展示について

大会期間中、企業による展示も行います。出展を募集いたしますので、ご希望の方は下記へお問い合わせください。

〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1

東京工業大学 大学院社会理工学研究科 室田研究室気付 大会企画委員会 宛

E-mail での問い合わせ先：jet2004-tenji@mr.hum.titech.ac.jp

8. 大会への参加申し込み

参加申し込みは、前号に同封された郵便振替用紙に、参加者氏名、所属、連絡先、支払内訳をご記入の上、8月27日（金）までに参加費をお振込みください。振込みによって受付とさせていただきます。それ以降は、振込みをなさらないで下さい。大会当日、会場にて、「当日参加」として受け付けます。

大会参加費 事前 3,500円（一般） 2,000円（本学会学生会員）
当日 4,000円（一般） 2,500円（本学会学生会員）

論文集代 4,500円

懇親会費 4,000円

論文集送料 500円（参加しない場合）

9. 宿泊案内について

宿泊等の斡旋はいたしません。学会開催日は、一部祝日と重なっておりますので、宿泊・交通機関の混雑が予想されます。ご準備を各人で早めに行われますことをお勧めします。

10. お問い合わせ先

大会全般に関しては以下にお問い合わせください。

日本教育工学会 大会企画委員会問い合わせ用アドレス：jet2004@mr.hum.titech.ac.jp

大会企画委員会 委員長：園屋 高志（鹿児島大）

副委員長：鈴木 克明（岩手県立大） 木原 俊行（大阪市立大）

委員：

赤倉 貴子（東京理科大） 赤堀 侃司（東京工業大） 石川 賢（宇都宮大）

井上 義弘（学習研究社） 大河原 清（岩手大） 大久保 昇（内田洋行）

奥田 聡（富士通） 小林 正幸（日本電気） 佐々木 整（拓殖大）

澤本 和子（日本女子大） 鈴木 萬司（スズキ教育ソフト）

高畑 大（東京書籍） 中山 実（東京工業大） 仁科 喜久子（東京工業大）

原 克彦（目白大） 東原 義訓（信州大） 堀田 龍也（静岡大）

松居 辰則（早稲田大） 室田 真男（東京工業大） 矢野 米雄（徳島大）

山内 祐平（東京大） 山田 恒夫（メディア教育開発センター）

米澤 宣義（工学院大）

特別顧問：

清水 康敬（メディア教育開発センター） 近藤 勲（岡山大） 山西 潤一（富山大）

日本教育工学会第 20 回全国大会

The 20th Conference on Educational Technology

工学 太郎

Taro KOUGAKU

東京工業大学

Tokyo Institute of Technology

< あらまし > 日本教育工学会第 20 回全国大会(20 周年記念大会)が平成 16 年 9 月 23 日(木)~25 日(土)の 3 日間、東京工業大学において開催される。今回から、(最終)原稿の提出方式が一部変更されている。大会での発表を希望している会員は、それらを、「大会のお知らせ(第 3 報)」本文でご確認いただきたい。なお、課題研究、一般研究、English Session のいずれの発表の場合にも、(最終)原稿の提出締切は、平成 16 年 7 月 30 日(金)である。原稿は、オフセット印刷をする都合上、マージン等の書式を遵守して作成すること。また、写真や図版は、直接プリントするか、貼り付けていただきたい。

< キーワード > 下のキーワード一覧を参考に、5 ~ 6 個のキーワードを列挙すること。

本文は 2 段組にしてください。

キーワード一覧 関連すると思われるキーワードを列挙してあります。記入の参考にして下さい。

教育目標	カリキュラム	教育課程	総合的な学習の時間	自己学習力	
教育情報	C A I	教育情報処理	データ解析	数理モデル	
シミュレーション	資料収集	データ解析ツール	情報教育	情報リテラシー	
情報処理システム	プログラミング言語		情報処理教育	図書館情報学	
学校事務処理	統計処理	情報検索	データベース	情報管理	システム評価
標準化	システム設計	システム開発	ネットワーク	Web 利用	インターネット
Eメール	情報倫理	インターネット倫理		著作権	
知識ベース	知識工学	知的学習支援システム	訓練支援システム	学習者モデル	
思考モデル	知識表現	推論機構	知識獲得	言語インタフェース	
エキスパートシステム		人工知能	認知発達	知的インタフェース	
テキストマイニング		データマイニング	思考の外化	バーチャルリアリティ	
教育メディア	教材管理	教材開発	教具開発	教育機器管理	学習コンテンツ
インストラクショナルデザイン		教育ソフトウェア開発			ヒューマンインタフェース
教育機器利用	遠隔教育・学習	放送教育	視聴覚教育	メディア教育	
マルチメディア	学習環境	コミュニケーション		メディアリテラシー	
教授法	授業スキル	学習スキル	教育評価	学力調査	教育統計
教育測定	評価項目	テスト	学力	知能	適性
性格	意欲	学習指導	授業研究	授業分析	授業設計
授業実践	生徒指導	生活指導	進路指導	教育方法	教育工学
協調学習	C S C L	グループ学習	研究方法論	質的研究	
教育経営	学級経営	教育施設	学校開放	学校規模	
教育設備	オープンスペース	学習環境	校具	学校保健	管理組織
教育施策	教育制度				
企業内教育	社会人教育	生涯学習	教師教育	現職教育	幼児教育
幼稚園教育	学校教育	小学校教育	中学校教育	高等学校教育	高専教育
大学教育	高等教育	技術者教育	教科教育	養護教育	特別支援教育
治療教育	語学教育	日本語教育	国際理解教育	看護教育	福祉教育
自己啓発	自己評価	O J T	人材開発	野外学習	国際協力



研究会の開催

テーマ 情報教育のカリキュラムと評価

日時：2004年7月10日(土)

会場：富山大学教育学部附属教育実践総合センター(富山市)

開催担当：小川 亮(富山大学教育学部附属教育実践総合センター)

研究会は当日受付にて同研究会の報告集(1,000円)をご購入いただければ、一般の方でも参加可能です。

プログラム： 発表時間：発表1件につき25分(発表20分程度，質疑5分程度)の持ち時間です。

開会 9:20

午前の部(9:20~12:00)

(1) ソフトウェア学習時における理解を妨げる要因について

笹倉千紗子(富山大学大学院教育学研究科), 上山 輝(富山大学教育学部)

(2) 大学生を対象とした双方向メディアの利用実態と問題意識

上山 輝(富山大学教育学部)

(3) 情報科学を意識したプログラミング教育の実践

新開純子(富山商船高等専門学校), 大森克史(富山大学教育学部)

(4) 映像を中心としたWeb学習教材の開発とその有効性

成瀬喜則・新開純子・早勢欣和(富山商船高等専門学校)

(5) 小学校における情報モラル教育教材の効果の測定

小川 亮(富山大学教育学部附属教育実践総合センター)

(6) 自己表明を生かした評価の実践

戸田正明(新潟県柏崎市立剣野小学校)

----- お昼休み(12:00~13:15) -----

午後前半の部(13:15~14:55)

(7) 大学におけるeラーニング課程のコスト分析：早稲田大学人間科学部におけるケーススタディ

向後千春(早稲田大学人間科学部)

(8) 調べ学習から解決課題を設定するための小学校総合学習における現状把握支援システムについて

岩田雅彦(兵庫教育大学大学院), 森広浩一郎・正司和彦・山城新吾(兵庫教育大学)

(9) 開発情報教育における観点別評価のための教員研修プログラムの開発

~ ルーブリック作業による教師集団での学力観の共有 ~

井上久祥・石関慶太(上越教育大学学校教育総合研究センター), 益子典文(岐阜大学), 川上綾子(鳴門教育大学), 西岡加名恵(京都大学)

(10) 大学の情報リテラシー教育におけるe-Learningの活用とその効果

上木佐季子(富山大学総合情報基盤センター), 大森克史(富山大学教育学部)

----- 休憩(14:55~15:00) -----

午後後半の部 (15:00~16:20)

シンポジウム

村川雅弘 (鳴門教育大学), 黒上晴夫 (関西大学総合情報学部), 小川 亮 (富山大学教育学部附属教育実践総合センター) ほか

(以下の3つのテーマに関して討議する予定です。)

- ・ 教師のための情報教育に関する研修をどう進めるか
- ・ 佐世保の事件と情報教育の関わりをどう説明するか
- ・ 情報教育のカリキュラムの体系化をどう図っていくか

閉会の挨拶 16:20 研究会委員長

会場: 富山大学教育学部附属教育実践総合センター 〒930-8555 富山市五福3190

・ 周辺地図: <http://www.toyama-u.ac.jp/jp/Outline/access/>

・ キャンパス内地図: <http://www.cerp.toyama-u.ac.jp/center/access.html>

・ アクセス方法: JR 富山駅から 市内電車 (「大学前行」乗車 「大学前」下車 15分) バス (「高岡駅」行き乗車 「富山大学前」下車 20分) タクシー (15分)

高速道路から 富山ICから8km (20分) 富山西ICから7km (15分)

会場連絡先: (小川 亮) TEL: 076-445-6379, FAX: 076-445-6379

研究報告集年間購読のお勧め



研究会の報告集は、会員・非会員に関係なく年間予約により購読できます。予約価格は年6冊、各研究会平均10件前後の研究発表で、年間合計500ページ前後になります。価格は郵送料込みで3,500円です (当日売りは割高になります)。詳しくは、学会本部事務局までお問い合わせください。

【学会本部事務局】〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル (視聴覚ビル) 2階

TEL/FAX: 03-5251-2133 E-mail: jet-office@japet.or.jp

研究会の今後の予定

2004年度の研究会の開催予定が決まりました (は依頼中または検討中です)。本年度は、全国大会が開催される9月には研究会を開催せず、発表件数の多くなる年度末、2月に研究会を開催する予定です。

11月20日 (土)	教育の情報化 ~ デジタルコンテンツを活用した授業実践と評価	東北学院大
2005年1月22日 (土)	国際交流と教育工学	長崎大学
2005年2月	確かな学力と授業実践	関東地方 ()
2005年3月	学校改善・授業改善と教師教育	鳴門教育大学 ()
2005年5月	多様な遠隔教育の実践と評価	北海道教育大学 ()

研究会委員会からのお知らせ

研究会に関するご意見・ご希望・魅力的な研究会テーマの提案・研究会での企画などお気軽に研究会幹事、委員までご連絡ください。連絡先は次の通りです。

(研究会全般, 研究会Web Page, 研究会発表の申込, 変更等, 原稿執筆) に関するお問い合わせ

研究会幹事 jet-branch@nime.ac.jp

(年間購読, 原稿提出) に関するお問い合わせ

学会本部事務局 jet-office@japet.or.jp

全国各地で、夢とロマン、そして何ができるかを語り合いましょう

村川雅弘（鳴門教育大学）

今年度より、研究会委員長を仰せつかりました村川です。研究会の活性化を通して、教育工学会の充実・発展に少しでも寄与できればと考えています。委員の皆さま、会員の皆さまに支えていただきながら。微力ではありますが盛り立てていきたいと思ひます。

先日、鳴門教育大学の院生に「日本の教育課程」について講義する機会があり、改めて今回の教育改革の礎となった教育課程審議会答申をじっくり読み返してみました。子どものたちのバランスのある健全な成長を希求し、そのために何をなすべきかが強く語られており、「いいこと書いてあるなー」が率直な感想です。しかし同時に「この実現には教師一人一人の力量とそれらを束ね活かして具体的な教育活動を具現化する各学校の様々なマネジメントが求められる」と強く感じました。様々な教育課題が山積している教育現場に対して、「教育工学会としては何ができるのか」「どのような具体的なアクションを起こせるのか」「学校現場にどう寄与していけるのか」など、本研究会を通して全国各地の現場教師、研究者と追究していけたらと考えています。

さて、本研究会は教育工学会の広報・宣伝、会員拡大の使命も担っています。そのために、研究会の持ち方・進め方についても新たな展開が求められます。例えば、教師と研究者、企業人が各々の立場・特性を繋げて活かして、様々な教育課題について教育工学として具体的に何ができるのかを共に考えるために異業種間のワークショップなども採り入れていきたいと考えています。会の持ち方・進め方についても今後色々創意工夫をしていきたいと思ひますので、アイデアともお寄せいただくと幸いです。研究の方法・内容についてじっくり協議するよさを継承しながらも、明るく元気でためになる会にしていきたいと思ひます。また、様々な土地で、その特産物に舌鼓を打ちながら、夢やロマンを語り合えたらいいですね。

研究会の報告

5月22日（土）、兵庫教育大学大学院神戸サテライトにおいて「総合的な学習の時間と評価（教育測定・評価の理論・方法論も含む）」をテーマとして研究会が開催された。交通至便な元町駅前という環境もあり、70名ほどの参加者を迎え、午後からは座席を追加するほどの盛況振りであった。



研究会のテーマである総合的な学習の時間に直結した研究発表では、実践事例の検討とともに、自己評価と他者評価の関係性、評価の一貫性と規準の作成者などについて議論が展開された。この他にも、学習支援システムの開発研究や各種授業の実践研究をはじめとして、多岐におよぶ教育工学一般に関する研究発表が行われ、全15件にわたって熱心な質疑応答が繰り広げられた。

現職教員のための大学院という会場校の特色も加わり、参加者の中には非会員の学校教育関係者も数多く含まれていた。各研究発表に対して日頃の教育実践に基づく質問や意見も活発に出され、「子どもを伸ばす教師は、子どもをよく観察している教師である」などの基本に立ち返った建設的な意見交換ができ、有意義な会に参加できたとの声もあった。

5月研究会開催担当：森広浩一郎（兵庫教育大学）

日本教育工学会 2004 年度秋の合宿研究会のご案内

テーマ 「IT活用実践の普及戦略」

主旨：

「学校教育の情報化」推進計画の最終年度にあたる 2005 年度が目の前に迫り、ITを活用した実践を推進する環境が整ってきました。情報教育カリキュラムの体系化、教育情報化コーディネータの配置などの充実も、教員や児童・生徒がITを活用できる可能性を高めてくれています。

しかし、ITを活用した実践に着手する教師が飛躍的に増加しているかということ、必ずしもそうではないようです。一部の地域・学校には、それに積極的な教師とそうではない教師との間に溝が生まれたり、それが深くなったりする現象さえ、確認されます。

IT活用実践に背を向けがちな教師たちにそれに着手してもらうためには、普及に向けたこれまでのアプローチに、何を重ねるべきなのでしょうか。IT活用実践の魅力や条件を、より「きめ細かく」検討する必要があるでしょう。

この秋合宿では、「学力向上への貢献」「教科教育との接点」「教員研修の工夫・改善」「校内・地域支援体制のさらなる充実」「IT活用の諸問題とその克服」などを視点として、IT活用実践の普及戦略を明らかにしたいと考えます。そのために、長年コンピュータ教育や情報教育の取り組みを積極的に展開してきた実践研究グループのある熊本を会場に設定し、このグループによる実践事例等の報告を踏まえて、IT活用実践の普及について密な議論を繰り広げることを企画しました。

熊本での秋の合宿に多くの実践者や研究者の参加を得て、「IT活用実践の普及戦略」の同定を実現させたいと思います。

なお、プログラムの概要は次のとおりです。

とき：10月30日（土）14：00～31日（日）15：00

場所：熊本県の阿蘇地方を会場にする予定です。詳しくは、JSETホームページや次号ニューズレターで案内いたします。

主催：日本教育工学会（JSET）

協力：熊本市コンピュータ教育研究会

内容：基調講演及び特別講演、事例報告、課題別分科会、パネルディスカッション、総括講演などのセッションを設け、IT活用実践の普及へのアプローチを多面的かつ具体的に考察いたします。

日本教育工学会第10期第8回理事会議事録

日時：平成16年5月15日(土) 15:00～17:00

場所：社団法人日本教育工学振興会(JAPET)

出席：清水康敬会長、近藤 勲副会長、池田 満、木原俊行、黒上晴夫、向後千春、
澤本和子、三宮真智子、鈴木克明、園屋高志、永岡慶三、中村紘司、中山 実、
前迫孝憲、村川雅弘、横山節雄、吉崎静夫、小林常一事務局次長

1. 第10期第7回理事会議事録の承認 資料1のとおり承認した。
2. 会員の移動について
資料2のとおり、新入会員44名、退会会員71名、種別変更34名を承認した。
3. 各種委員会報告
 - (1) 編集委員会
中山理事から資料3などにより、編集日程等の報告が行われ、これを承認した。
また、29巻の特集号のテーマ等を検討した。
 - (2) 出版委員会
吉崎理事から今年度中に10冊程度の叢書を計画する方向で検討しているとの報告があった。
 - (3) 企画委員会
木原理事から夏合宿を10月に変更し、「秋合宿」とする方向で検討中との報告があった。
 - (4) 研究会委員会
村川理事から資料4の新委員の報告があり承認された。また、研究会開催回数の報告があった。
 - (5) 大会企画委員会
園屋委員長・清水会長・木原委員・近藤副会長から資料5により、申し込み方法、20周年記念企画、原稿提出時期などについて説明があり、これを了承した。
 - (6) 学会ホームページ
清水会長から資料6により、HPの改訂と委託先等を一任することで承認された。
 - (7) 顕彰委員会
三宮理事から資料7により、研究奨励賞と論文賞の選考についての説明があった。
 - (8) 選挙管理委員会
澤本理事から、9月の大会までに、前中山委員と残された課題引継ぎを行うと報告があった。
 - (9) 総務・会計 特になし
 - (10) 渉外
横山理事から資料8により、科研費審査員の「海外」移行などについての報告があった。
 - (11) 20周年記念事業
清水会長から現在進行中、計画中のものを12月を目途に進めているとの報告があった。
 - (12) ニュースレター委員会
清水会長から資料9により、次回130号の原稿について説明があり、了承された。
4. 第20回通常総会の開催について
清水会長から資料11により、予算・決算案について説明があり、一部修正し、総会に提出することを承認した。また、総会の進め方、名簿作成などについての検討をした。
5. IT活用の効果に関する調査研究事業について
清水会長から資料12により、文科省委嘱事業の報告があり、これを了承した。
6. その他
 - ・日本学術会議の調査協力、協賛名義使用の承諾についての報告があり、これを了承した。
 - ・今後の理事会の日程について
第10期第9回理事・評議員会(合同):平成16年6月19日(土)13:00～14:00
第10期第10回理事会:平成16年7月17日(土)15:00～17:00

以上

■ 正 会 員 24名

秋山 健一(桜美林大学)
 生田 淳一
 大久保 正彦(神戸大学)
 太田 伸幸(愛知工業大学)
 桑井 資行(信州大学)
 佐久本 功達(名桜大学)
 佐渡 真紀子
 (お茶の水女子大学大学院)
 莊島 宏二郎(大学入試センター)
 得丸 智子(日本女子体育大学)
 中島 光雄(エニート)
 西谷 淳(甲西町立三雲小学校)
 西平 直史(山形大学)
 橋下 友茂(有限会社ソフトニカ)
 長谷川 真里
 (お茶の水女子大学大学院)
 茨木 正浩(観音寺市立柞田小学校)

冬木 正彦(関西大学)
 保福 一郎
 (東京都立工業高等専門学校)
 松下 孝太郎(鎌倉女子大学)
 松田 昇一(大分大学)
 森田 盛行(社)全国学校図書館協議会)
 谷田 親彦(弘前大学)
 矢野 聡(松本大学松商短期大学部)
 山内 康裕
 (武庫川女子大学附属中学校・高等学校)
 Insung Jung(国際基督教大学)

■ 准 会 員 1名

野崎 秀正(広島大学大学院)

■ 学 生 会 員 19名

石田 隆(東北大学大学院)
 石丸 雄一郎(滋賀大学大学院)

岩崎 千晶(関西大学大学院)
 大内 誠(東北大学大学院)
 岸 俊行(早稲田大学大学院)
 櫻井 佑樹(新潟大学大学院)
 佐藤 智明(神奈川工科大学)
 佐藤 良二(東北大学大学院)
 下山 幸成(早稲田大学大学院)
 杉浦 裕(茨城大学大学院)
 住 政二郎(関西大学大学院)
 中原 達公(上越教育大学大学院)
 名畑 由之(上越教育大学)
 西原 康行(新潟大学大学院)
 林 泰子(滋賀大学大学院)
 三宅 元子(広島大学)
 柳町 高正(東京理科大学)
 山崎 寛山(上越教育大学大学院)
 吉田 拓也(関西大学大学院)

学会日誌

- 7月10日(土)研究会「情報教育のカリキュラムと評価」(富山大学)
- 7月17日(土)理事会・編集委員会(JAPET)
- 9月23日(木祝)～25日(土)第20回全国大会(東京工業大学)
- 10月30日(土)～31日(日)秋の合宿研究会(熊本県)
- 11月20日(土)研究会「教育の情報化～デジタルコンテンツを活用した授業実践と評価～」(東北学院大学)
- 2005年
- 1月22日(土)研究会「国際交流と教育工学」(長崎大学)

お問い合わせ先(Eメールアドレス)

論文投稿に関するお問い合わせ・・・編集委員会(jet-editor@japet.or.jp)
 研究会の開催についてのお問い合わせ・・・研究会事務局(jet-branch@nime.ac.jp)
 ニュースレター編集に関するお問い合わせ・・・ニュースレター編集委員会
 (jet-news@japet.jp)
 その他の掲載記事に関するお問い合わせ・・・学会事務局(jet-office@japet.or.jp)

ニュースレター編集委員会

編集長:坂元 昂, 編集委員長:堀田龍也, 委員:小柳和喜雄, 石塚丈晴
 静岡大学情報学部堀田研究室 FAX: 053 - 412 - 6558 E-mail: jet-news@japet.jp

日本教育工学会ニュースレター No.130

2004年 6月30日 発行人 清水 康敬
 発行所 日本教育工学会事務局
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル) 2階
 TEL / FAX: 03 - 5251 - 2133 E-mail: jet-office@japet.or.jp
 http://www.japet.or.jp/jet/ 郵便振替 00180 - 0-111042